

補助事業計画策定の過程で再発見した強みを生かして経営革新へ挑戦

会社名 上田金属株式会社(東京)

昭和29年から黄銅やアルミなどの金属材料の卸売を行ってきたが、最近では金属の切断加工サービスにも注力している事業者。

1. 相談のきっかけ

近年、注力している金属の切断加工サービスの品質・コスト・納期を改善するため、最新の自動丸鋸切断機を導入する必要に迫られていた。

その資金調達に、ものづくり補助金を活用すべく事業計画策定に着手したが、初めての試みだったので要領がわからず、支援を求めてよろず支援拠点へ相談に来た。

2. 課題整理・分析

ものづくり補助金を単なる設備投資の助成と捉えていたために、自社の強みをどのように生かして成長シナリオを構想すべきか、という視点が欠けていた。

本企業には、高度な切断加工技術に関する特許申請技術があることに着目。省エネ効果の高いLED照明器具の放熱板加工に関するその技術をさらに進化させれば、環境負荷の低減に貢献できる革新的なものづくりが可能であり、経営革新の可能性が広がるものと分析した。

3. 解決策の提案

本企業は補助金申請が初めてであったため、ものづくり補助金の詳しい内容、事業計画の考え方や作り方などを一から支援することを提案。

また、最新の自動丸鋸切断機の導入により同社のボトルネックを解消した後、そこで生まれる余力を活用して新規事業(省エネ効果の高いLED放熱板製造)に注力し、経営革新計画承認に挑戦するという成長シナリオを提案した。

4. 成果

「革新的銅LED放熱板の製作における、銅厚板精密切断機の導入と製造効率化」という事業計画名で、平成26年度補正ものづくり・商業・サービス革新補助金(1次公募)に応募し採択された。

その結果、設備投資と試作開発に要する費用の2/3の約800万円強の補助金枠を獲得することができた。

現在、採択された計画に基づき交付申請を進めると共に、本事業計画を昇華させて本格的な経営革新計画を策定すべく準備を進めている。

自動定寸丸鋸切断機導入→浮上リフターで作業員の負荷軽減→余力で放熱板を改良→革新的な放熱板の開発



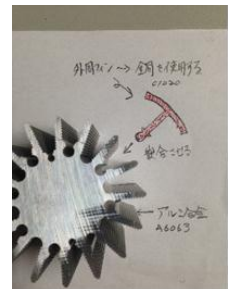
丸鋸切断機YTMK-1250



浮上リフターと360°回転前テーブル



LED照明用放熱板



アルミ材に銅材を嵌合する